2018
05
Vol. 15

Monthly Report of Department of Architecture 東北工大建築学科通信

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

発行：東北工大建築学科　学科長　石井敏

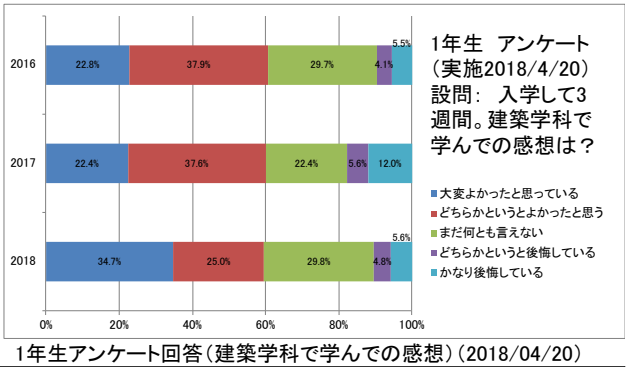
Pick Up News

ゴールデンウィークも終わり、活気に溢れた日常が戻ってきました。1年生の皆さんは、入学して1ヵ月間の張り詰めた緊張感もほどけて、少し楽な気持ちで5月を迎えたのではないでしょうか。4/20の建築入門の中でアンケート調査を実施しました。リアルタイムで結果がわかる装置を使ってのアンケート実施です。過去の同様のアンケート結果と比べても大きな違いはありませんでしたが、本学科で学んで「大変よかったと思っている」という回答が昨年、一昨年に比べて10ポイント以上も高かったのはうれしい結果でした。建築学科での学びは「難しい！」、でも「楽しい！」という声が多いのも例年通りでした。多くが生活や学修に「悩み」や「不安」も抱えているようです。「自分だけではないんだ」ということを知ることができた結果でした。まもなく教学アドバイザーも始まります。大いに活用して下さい！

パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校との交流会　学生・院生も積極的に英語で交流（2018/04/17）

3年生　建築設計デザインⅠ　小学校の設計課題にあわせての小学校見学（東二番丁小学校）

5号館建築学科内の学生ラウンジ
思い思いに過ごしている光景がみられます



1年生アンケート回答（建築学科で学んでの感想）（2018/04/20）

新入生138名の概要：出身高校88校、仙台市内の高校出身者37.7%、女子比率23.2%、普通科系高校の出身割合59.9%、出身地は北は北海道から、南は宮崎、そして香港まで。多様な背景を持つ学生が集まっているところが建築学科の強み！

1年生と学科長との懇談会後の記念撮影（2018/05/11）

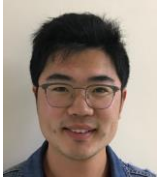
大学生活が始まって1ヵ月。生活や学修の状況、学びの印象を聞くために懇談会を開催しました。1時間程度、10名の1年生の声を聞きました。まだ慣れないこと、戸惑うこともあるようですが、楽しんで学んでいる様子を確認することができました。第2回も開催予定です！

Pick Up Lab.

有川研究室では、材料の生産・流通から設計・施工、供用・維持管理、解体・リサイクルに至るライフサイクル全体を通して、よりよく歳を重ねることができる建築物の「つくり方」と「つかい方」を研究しています。昨年度は、地域における住宅生産システム（地元の木材供給や大工・職人育成）、経年による建築仕上のエイジング（木材表面の褪色）とメンテナンス、中古住宅の残存性能と経済価値をテーマとして卒論に取り組みました。また、研究室では毎年、地域の設計者や工務店と連携して「大工塾」を開催しています。今後の地域住宅について現場の生の声が聞けるいい機会です。積極的な参加を期待します。

木材供給の実地調査（原木の産地）

地域木造住宅の現場研修（大工塾）



院D2 喬文琪くん
東北大学（瀋陽）出身

Pick Up Student

日本に来る前、日本の生活はどの様な感じだろうかと想像していました。今は既に約1年日本で生活して、凄く不思議に感じています。日本での住まい、食事、交通は中国と全然違うので、まるで別の世界に感じられ、面白いです。この一年間、日本に対する好奇心を持って、色々な処を旅行しました。歴史的建造物とその保護制度を研究しながら、日本の文化も理解してきました。日本の生活に慣れるに従い、中国と似ている点も多いと感じています。中国と「全然違う点」から、「似ている点」まで、日本に抱く感覚の変化は長い時間をかけて体験し、探求しないと理解できないものだと思っています。これは研究に必要な道理ではないかと考えようになりました。

4年 小林 由佳さん
釜石高校（岩手）出身

Pick Up Student

私は高校は普通科だったので、建築についての勉強は何もわからない状態のスタートで、1～2年生の頃は授業や課題に取り組むので精一杯だった気がします。しかし、3年生からは少し余裕も生まれ、自主的に学ぶようになってきました。本学の建築学科は難しいと思う授業もありますが、普通科出身でも授業についていきやすい環境で、幅広く建築について学べるところだと思います。幅広く多くを学んできたことで自分のやりたいこと・興味のあることが見つかり、現在は研究室で、興味を持っている災害公営住宅のコミュニティ再生などに取り組んでいます。卒論に向け研究を頑張り、残り1年の学生生活を悔いのないよう過ごしていきたいです。